

カタハガイ

Pseudodon omiensis (Heimburg)

イシガイ目イシガイ科

石川県カテゴリー 絶滅危惧Ⅰ類

国カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

国内分布から考えて石川県の生息地は多くないと推測されるが、本種の生息地である水路の生息環境が悪化しているため。

形態

殻は長卵形で後背縁に放射状の肋がある。殻の内側にある後側歯が弱いことがイシガイ科の他の小型種との区別点である。殻長は最大で90mmに達する。

国内分布

愛知県以西に分布。日本海側では富山県まで記録あるが、富山県では絶滅したとみられ、生息確実な東限は石川県。

県内分布

邑知潟周辺と志賀町（志賀地区、富来地区）の水路。

生態

小川や水路の砂泥底に生息する。

生息地の条件

生貝が潜る砂泥底と幼生が寄生する魚類（ハゼ類など）の存在が条件。

生存の危機

水路の改修工事による砂泥底の消失。外来魚の侵入により幼生の寄主となる魚類がいなくなること。
(A, C)

特記事項

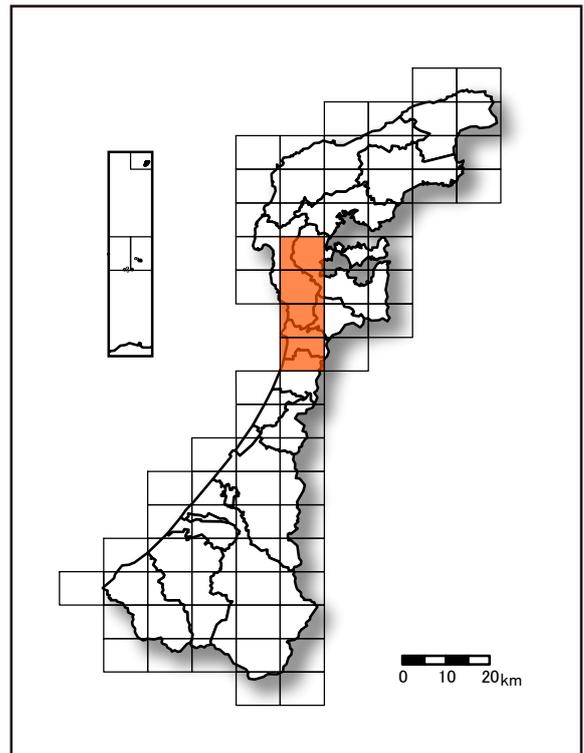
石川県の個体群は東限（北限）域にあたる。

参考文献

石原一彦 2008. 石川県邑知潟周辺の水路で見られるイシガイ類（予報）. ちりぼたん. 39 (1) : 55-56. (淡水貝類研究会第13回研究集会講演要旨).
近藤高貴 2005. カタハガイ. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 6 陸・淡水産貝類 : 356.
近藤高貴 2008. 日本産イシガイ目貝類図譜. 日本貝類学会特別出版物第3号. 69pp. 日本貝類学会
富山県 2002. 富山県の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブックとやま—.



写真提供者: 石原一彦



県内の分布